

スリランカ NPO法人 荷車の会 ニュース 2006年6月号

発行責任者：荷車の会代表 坂田繁数
〒580-0031大阪府松原市天美北5-13-5
072-337-1128 携帯090-3281-5692
<http://www.niguruma.org>
e-mail: ecopara@hotmail.com

スリランカは、今・・・

先日のインドネシア、ジャワ島中部、ジョクジャカルタの地震の被災地の様子は、痛々しいものがあります。一昨年のスマトラ沖地震ほどの救援の体制がとられているだろうかと気がかかります。一方で、また、まざまざと先の地震の悪夢がよみがえってきます。

私は、5月4日、日本はゴールデンウィーク真只中、今年3回目のスリランカ訪問をしてきました。今回の訪問は、立命館大学が進めている、東海岸アルガムベイ地区のアッセンブリーホール建築、運動場整備の契約締結と「荷車の会」独自のマータラの孤児院増築の進行状況を見ること主な目的でした。知り合いになった大阪在住のスリランカ人、ダルマシリさんも、2年ぶりの帰国を一緒にすることになり、ダルマシリさんからは、日ごろ支援している老人ホームも訪問してほしいと頼まれたのでした。

まず、コロンボでの立命館大学の方の、業者との契約は、いろいろな障害を乗り越えて無事

に、締結に至りました。

被災地の全体的な復興の状況としては、まだテントや仮設住宅は残っているものの、復興住宅が建設され、大部分の人が住居は、確保できていました。当初、海岸線から100メートル以内には住居は建設できないということでしたが、現在では、30メートル以内と、緩められているそうです。

南部のダンムツラ村の図書館を訪れました。「荷車の会」が贈った図書館は、突然訪れたにもかかわらず、子どもたちでごったがえし、「こんなふうに、毎日大いに活用させてもらっ



ダンムツラ小学校の完成した図書館の前で



立命館大学が支援している東海岸アルガムベイ村の小学校のテントの教室

ています」と、先生たちと子どもたちの笑顔が返ってきました。

マータラの仏教孤児院では、子どもたちが走り出てきました。「荷車」としてのお土産のデジタルカメラに大喜び、使い方を教えました。わからないときはパソコンの指導に入っているフランスのボランティアの先生に聞きますと言っていました。孤児院の増築は、現地の企業が支援する1階部分の工事が進んでいました。重機もなく、手作業ですが、鉄筋の柱にコンクリー

トが流し込まれていました。1階ができあがれば、引き続き「荷車」支援の2階部分の工事に入っていきます。

以前、津波の様子を絵に描いてくれたマータラのフォート(オランダが占領していた時代、軍の駐屯地となっていたところ)の中の学校を訪れました。学校の建物の被害はなかったものの、15人の児童がなくなり、100世帯を超える家庭が被害者を出したところです。1400人ほどの小、中、高校のある学校ですが、建物だけがひしめき、運動場はありません。通路で朝礼をしていました。直接、建物崩壊などの被害のあったところにしか、支援はなく、「荷車」として贈ったCDカセット、友人からもらった鉛筆を大変喜んでもらいました。

ゴールという街の、ダルマシリさんの故郷の老人ホームを訪れました。ダルマシリさんは、日本で働きながら、個人的に車椅子を贈ったりしているのだそうです。そのホームも、隣接する土地を購入したい(老人ホームには、散歩するスペースもないので)という要望をもっているというのですが、今のところ「荷車」としては、手に負える援助ではないと思われました。友人のラタナの故郷でも、幼稚園をという要望があります。とにかく、津波による直接の被害地にかかわらず、あちこちで、支援や援助の声があるわけです。

「荷車の会」としては、地道にひとつずつ、引き続きできる範囲で支援を続けていこうと考えています。

これまでの、「荷車の会」、立命館大学による活動は、直接の支援以外に、スリランカの発展につながるような取り組みも産み出しています。立命館大学として、水産資源の活用や漁業の振興にかかわる研究を共同でやってくれるような研究者を紹介してほしいという申し入れがありました。また、この間、世界中からボランティアがはいつたわけですが、そのボランティアワークの成果や問題点を研究するという分野の協力者も紹介することになり、ルフナ大学(妻が日本語をおしえていた大学)と、提携する話が

進んでいます。

このように、多様な広がりをもつようになりました。9月には、立命館大学の学生たちが、



アルガムベイ小学校での記念植樹の様

子どもたちと交流するツアーの準備をすすめています。

ただし、皆さんご存知のとおり、ゲリラと政府軍との衝突があり、内戦突入の危機がささやかれ、外務省から渡航自粛勧告が出ています。日常生活には支障はなく、市民に対する危険は心配ないのですが、しばらく政情安定を見守らなければならないと考えています。

以上のような、スリランカの現状です。また、秋ごろにでも、日ごろご支援くださっている皆様と、訪問の旅を企画したいと考えております。これからも、ご支援のほど、よろしくお願いたします。

5月4日から11日までスリランカに出かけ孤児院や老人ホームなどたくさんの写真を撮りながらメモリを消去してしまいました。2月に立命館大学の学生さんたちで行ったときの写真を掲載しました。

「荷車の会」の活動募金を取り組んでいます。ご協力よろしくお願いいたします。

募金の振込先

三菱東京UFJ銀行松原支店
普通預金4630504

荷車の会 代表 坂田繁数

郵便局 記号14190-2 番号61891331
サカタシゲカズ